1♀，屋久島小瀬田，11. Ⅶ. 1976，田尾採集

奄美大島にはヒメキンオビハナノミ *V. miyarabi* NOMURA を産し，屋久島産のものはこの種との関係に興味が持たれたが，本州産などと特に差は見られない。

なお，九州においては現在まで福岡県下からのみ採集されているようだが，熊本県祖母山の採集例があるのでここに記しておく。

1♀，熊本県祖母山，21. Ⅶ. 1968，酒井香採集

以上の標本は筆者が保管している。標本を恵与された酒井・田尾両氏，ならびに北九州のハナノミの資料を恵与された高倉康男氏に厚く感謝申しあげる。

（〒236　横浜市金沢区六浦町 3577）

ツシマムツボシタマムシ宮城県に産す

田村　隆宏

ツシマムツボシタマムシ *Chrysobothris samurai* OBENBERGER は対馬から記載され，近年になって本州（広島県，岡山県，福島県いわき市）および九州（大分県飯田高原）から発見されて話題を呼んでいる。筆者は宮城県白石市東白石産の本種を見いだしたので，日本における北限記録かと思い報告する。

1♀，宮城県白石市東白石，27. Ⅵ. 1976. 鈴木採集

この個体は4紋型の f. *samurai* である。

なお，黒沢良彦博士は1975年にツシマムツボシタマムシの学名 *C. tsushimae* を，樺太の *C. samurai* の学名のシノニムとし[1]，*tsushimae* は6紋型のツシマムツボシタマムシの型名として残している[2]。

本種の同定に当っては，藤田宏・秋山黄洋両氏にお願いした。

1)　Y. KUROSAWA (1975): Bull. Natn. Sci. Mus., **1** (1), pp.73〜74

2)　黒沢良彦 (1976)：甲虫ニュース，No.33, p.10

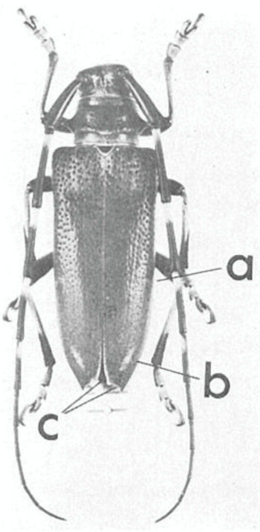
（〒180　武蔵野市吉祥寺本町 2-33-18　ときわ荘 丸岡堅二方）

白紋のあるヤエヤマフトカミキリ

森島　直哉

沖縄県西表島にて，上翅に白紋のあるヤエヤマフトカミキリ *Blepephaeus yayeyamai* BREUNING を採集した。本邦からは現在5種の *Blepephaeus* が知られているが，上翅に斑紋を有するのは，石垣島特産のイシガキフト1種で，ヤエヤマフトに白紋の出る個体があることは今までに知られていなかったことと思われる。

1♀，西表島カンピラの滝，14. Ⅴ. 1976.



写真のように上翅の翅端近くに一対の明らかな白紋を備え（b），目立たないが，上翅中央よりやや翅端よりの側縁部にも小さな一対の白紋が見られる（a）。また，翅端部および会合線上の後方⅕にも白色微毛が密生している（c）。

筆者は西表島産のヤエヤマフトはこの1個体のみしか検していないが，石垣島のものに比べ黄褐色の微毛が多く，写真の示すよう触角第2〜4節の基部，中・後脛節の基部の白色微毛は著しく密で発達しており，翅端の形（*Blepephaeus* 属では同一種でも変化の幅が大きいが）も内角はほとんど尖らず，イシガキフトのそれに近い。

（〒321-14　日光市花石町1823）

三宅島5月上旬のカミキリ

藤田　宏・小笠原　隆

伊豆諸島における甲虫相の調査は，最近御蔵島が脚光を浴びたことなどから，以前より多くの人々が訪れるようになったが，まだまだ場所・時期・採集法共に片寄っている傾向にある。

筆者らは1976年5月8〜9日にシイの花に集まるカミキリを求め，三宅島を訪れた。南西諸島の島々では，3〜4月に咲くシイの花に多くのカミキリが集まるが，それらの種の多くは他の時期，他の採集法では得にくい。伊豆諸島のシイの花にも同様に，未記録の，あるいは未知のカミキリが集まっているのではないか，という予想のもとに，大路池畔のシイ原生林を訪れたが，池の周りのシイはあまりに大木すぎて，木に登ることさえできないという状態であった。ちょうど，全島シイの花が満開で，池の周りを歩いていると，シイの花の香りでむせかえるほどであったにもかかわらず，1本もすくうことができなかった。皮肉なことに，海岸線のバス道に面した樹相の貧弱なところにあるシイの花は，皆容易にネットですくうことができたが，ヒメクロトラが非常に多いほかは，他のカミキリはまったく見られなかった。

結果的には失敗に終ってしまったが，大路池周辺のシイ花上には興味深いカミキリがいる可能性は充分にある